

学校評価（評価項目・実践目標・今年度の取組）

<p>I 総合評価（令和4年度学校関係者評価）</p> <ol style="list-style-type: none">1. 地域は高齢化が進んでいる。いつまでも学校が存続できる様に、魅力ある学校にこれまで以上にしてもらいたい。久々に実施した地域の行事に、スタッフとして多可高校生が参加をしてくれた。今後もお願いをしたい。2. 以前に比べて、生徒の表情は穏やかになった。しかし、不登校の生徒はどの学校でも増加している。いろいろな問題が絡んでいる。生徒の特性を十分に理解して対応し、きめ細やかな対応をお願いしたい。3. 卒業後の進路保障と部活動の活性化が重要だと思う。一年間をしっかりと取り組むことができれば、周囲からの評価も上がる。どのような生徒を育てたいか学校としてのビジョンを持つべきだ。4. 地元企業は人材不足・人手不足で、Uターン就職をして欲しいと願っている。多可高校とは進路を通じて企業展示会を実施しているが、もっとその様な機会を作りたいと考えている。5. 心のサポートシステム講演会に参加をしたが、テーマも講師も大変良かった。生徒の問題行動は聞いていない。高齢者の方が下校時の見守りを行っているが、苦情は聞いておらず、生徒が挨拶をしてくれると喜んでおられた。6. 学校の思いや考えをもっと発信し、地域の方に知らせていけば良いのではないかと。また外部への行事に積極的に参加してもらいたい。7. 避難訓練は実情に合わせて実施しているか。水害を想定しての訓練や不審者対応訓練などを実施していくべきだ。
<p>II 評価方法（学校関係者評価委員会）</p> <p>校内の学校評価委員会では、生徒や保護者、そして教職員に対して学校評価アンケートを実施した。その結果に基づいて「今年度の取組・成果」と「今後の課題・取組」をまとめ、自己評価（A～D）を出した。その結果を参考にして、学校関係者評価委員会では、管理職及び部長・学年主任からの説明・質疑応答を行い、委員各々の立場からの知見を加味して意見を提出し、総合評価と意見をとりまとめた。</p>

領域	評価項目	実践目標	上段「今年度の取組・成果」 下段「今後の取組・改善策」	評価
学校運営	1 家庭や地域への情報発信	①学校通信「日日新」（ひびあたらに）を年に6回程度発行し、本校生徒全員と地元中学3年生及び地元地域に配布し、学校の情報を提供する。	「今年度の取組」 今年度は学校通信を年に6回発行し、地元中学校や関係諸機関に配布した。 「今後の取組・改善策」 来年度は6回以上発行することを目指す。	A
		②ホームページの充実をはかるなど、地域に密接した情報発信につとめる。	「今年度の取組」 本校の活動内容や、行事の案内を地域に発信した。また、ホームページの定期更新やブログの充実にも努めた。 「今後の取組・改善策」 来年度はホームページの内容の充実やブログの更新頻度を上げ、さらに広報活動に力を入れたい	B
		③緊急時の連絡を確実にするため、メール情報配信サービス（ライデンメール）への登録を徹底する。そのためにも、まずは保護者にとって有益なメール配信の頻度を高める。	「今年度の取組」 ・学年通信等を使って、保護者が身近に感じる情報を発信した。 ・メール情報サービスを十分に活用することができなかった。 「今後の取組・改善策」 今年度は登録者も増え、こまめなメール発信もできたように思う。学年通信については、もう少し頻度を高めたい。 ・保護者が必要とする情報を発信できるように、学年別にメール発信したい。	B
	2 地域との交流	地元関係機関や地元地域との連携を深め、地域の行事、地域福祉施設、地元こども園との交流、ボランティア活動を積極的に行い、内容の充実を図りつつ地域貢献に努める。また、企画段階での交流参加生徒の視野で意見を述べられる場を設ける。	「今年度の取組」 ・多可町高校生議会での取組が、7年目を迎え、一層の内容充実にも努めた。多可町高校生議会での高校生の意見が、行政や地域にも採用されるよう工夫した。 ・生徒会役員が中心となって、多可町高校生議会に参加しているが、全校生徒にも広く意見を求める。 「今後の取組・改善策」 まだ、全校生の意見を広く募ることはできなかったが、内容の充実にも努めたい。	B
			3 危機管理	警備・防災計画を策定するとともに危機管理体制を整備する。また個人情報の保護にも努める。

領域	評価項目	実践目標	上段「今年度の取組・成果」 下段「今後の取組・改善策」	評価
学習指導	4 基礎学力の 向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に基礎・基本を定着させるために、効果的な教材及び学習方法を研究する。 教員間での活発な意見交換や情報共有を推進する。 	<p>「今年度の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインの学習支援ツールを活用することにより、生徒が主体的に学習内容の学び直しをおこなえるようになった。 年間3回の「到達度テスト」の実施により、生徒の基礎学力の推移を見極めた。 新学習指導要領の実施にともない、教員向けの参考事例集や研修動画の周知などを積極的におこない、授業実践につなげた。 ICT機器を活用した授業をおこなう教員の増加により、頻繁に問題点や利点を教員間で共有できた。 <p>「今後の取組・改善策」</p> <ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に基づく授業実践、指導改善をさらに進めるための教員研修を充実させることで、生徒の基礎学力の向上の一助とする。 観点別評価を効果的に取り入れて学力向上を図るために、教科中心に評価方法等を改善する。 BYODによる、生徒への指導の個別最適化を進める。 	A
	5 特色ある 教育課程の 編成	<ul style="list-style-type: none"> 1学年2クラスの状況下でも特色ある3類型維持を実現できる教育課程の再編成を行う。 進路希望に合致する適切な類型選択・科目選択ができるよう、教科・部・学年と連携を図る。 	<p>「今年度の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路選択の幅を狭めないために、教育課程の再編成をおこなった。 新学習指導要領に基づく教育課程の実施1年目となり、円滑な実施のために教育課程委員会や各教科を中心に教員間の情報共有をおこなった。 新学習指導要領の全学年実施となる令和6年度の教育課程について、選択科目の編成をおこなった。各類型の特色ある授業・取組を継続させつつ、現行の選択科目の見直しをおこなった。 1年生において2学年次に福祉ボランティア類型に進む生徒に対して、福祉系の大学見学をおこない、進路実現に向けた準備をおこなった。 <p>「今後の取組・改善策」</p> <ul style="list-style-type: none"> 特色ある取組や適切な進路実現のために、教育課程の見直しをおこなう。 各教科内、学年内での活動にとどまっているため、総合的な探究の時間などを通じて、教科・学年横断的な取組を増やしていきたい。 	A
	6 少人数指 導・個別指 導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別クラス編成・少人数指導・個別指導を推進する。さらに、評価の点で類型別の特色を加える。 	<p>「今年度の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科・科目の特性に応じて、習熟度別・チームティーチングによる授業展開を実施する。 生徒情報の共有により、学年だけでなく教科担当者の声かけ、面談を励行する。 職員室前、進路指導室横の自習スペースの利用による自主学習がしやすい環境整備をおこなった。 <p>「今後の取組・改善策」</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度も少人数指導による授業展開やきめ細かな生徒対応は各教員で実施できたように見受けられるが、学習成果をはかる目安として、生徒アンケートの実施・活用を進めていく必要がある。 新学習指導要領に対応した教育課程でも少人数指導を継続するために、授業展開を見直していく必要がある。 形式的な少人数指導にならないように、各教科中心に指導改善をおこなう。 	B

領域	評価項目	実践目標	上段「今年度の取組・成果」 下段「今後の取組・改善策」	評価
生徒指導	7 生徒指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に生徒指導方針を作成、教員や生徒に提示して、教職員と生徒の間の信頼に基づく継続した生徒指導をする。 また、学期毎にその方針の達成状況を確認するとともに、全職員であらゆる場面を通して生徒指導を行う。	「今年度の取組」 生徒指導方針を作成し、職員全体で共通認識をもてるようにした。 コロナ禍での生徒の心的負担を考慮した指導を意識した。限定的に校則を緩めることで学校生活でのストレス軽減を狙った。	B
			「今後の取組・改善策」 もっと頻繁に見直しを生徒指導部会でできるようにする。	
	8 学年・部との連携、情報の共有	学年会、拡大生徒指導委員会、教育相談委員会、授業担当者会等の連携をはかり、情報を共有し、共通理解を図ることにより、問題行動を未然に防止する。 また、各種アンケートや学習記録、個人調査票などの資料を整理し活用する。	「今年度の取組」 生徒指導部会は問題行動発生時や行事前には臨時で開催することもあり、生徒指導部と学年指導部の連携を密に行えた。 教育相談を活用し、生徒指導と連携することができた。	A
			「今後の取組・改善策」 各種アンケートのフィードバックをしっかりと行っていく。	
9 いじめ防止基本方針	いじめ防止に向けた組織的対応を徹底する。	「今年度の取組」 いじめアンケートを学期ごとに形式を変えて行い、早期発見に努めた。いじめ対応チームを発足することでチームでいじめ対応に当たることができた。	A	
		「今後の取組・改善策」 いじめについて職員だけではなく、生徒とも共通認識をもてるようにしていく。		
10 学校行事の充実	文化祭、体育大会、球技大会等の学校行事を、生徒が運営していけるよう教師がサポートし、充実した学校行事をつくり上げる。	「今年度の取組」 制限のある中だったが、各種行事を行えた。逆に、制限下での工夫を促すことで活気のある行事になった。	B	
		「今後の取組・改善策」 コロナ対策をすることを前提に各種行事を設定していく。		

領域	評価項目	実践目標	上段「今年度の取組・成果」 下段「今後の取組・改善策」	評価
進路指導	11 主体的な進路選択能力の育成	大学・短大・専門学校や職業のガイダンスを計画的に実施し、その内容や成果について検証する。	<p>「今年度の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生、2年生といった早期から、発達段階に応じた進路指導を組織的に行えるように、進路検討会の充実に努め、実施した。1年生は、昨年の卒業生の講話を聞き、進路学習を行った。 ・面談や進路学習、進路指導室での相談など、細やかに個別指導を行い、生徒の希望する進路を実現させるよう努めた。 ・ガイダンスにおいては、学問分野や学校の内容の紹介だけでなく、学習方法についてのもやグループワークを取り入れたガイダンスを実施した。実際の面接練習であったり、講師の方に個別に講評をいただくなど、きめ細やかな指導を実施した。 ・多可町商工会主催の企業展示・説明会・見学会を実施し、就職希望者が地元企業について知り研究する良い機会となった。 <p>「今後の取組・改善策」</p> <p>今年度は計画していた進路ガイダンスをすべて行うことができた。各学年早期から系統立てて取り組み、内容の充実を図るよう努めたい。</p> <p>商工会と連携して、地元企業を知る機会を多く作り、ミスマッチを防止する取り組みが必要である。</p> <p>また、最近の卒業生から実際のキャンパスライフや就業状況を聞く機会を設け、自身の進路選択に活かせる情報を提供する取り組みを充実させたい。</p>	B
	12 企業見学・大学見学・就業体験の充実	各学年のホームルーム計画・生徒のニーズに応じた企業見学、大学・専門学校の見学を実施し、進路意識を高める。就業体験やオープンキャンパスに参加し、進路意識の充実を図る。	<p>「今年度の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多可町商工会の協力を得て、7月に2、3年生の就職希望者を対象に、企業展示・説明会を実施した。実際に複数の企業について詳しく紹介いただき、企業研究の良い機会となった。 ・各種ガイダンス、応募前の企業見学等を通して志望企業の研究を行い、就業後のミスマッチによる短期間での離職防止に取り組んだ。 <p>「今後の取組・改善策」</p> <p>今後も商工会との連携を密にし、地元企業について知る機会を多く設けたい。</p> <p>細やかな進路指導を行うよう努めたい。実際の就業体験だけではなく、丁寧な事前・事後指導を行い、その後の進路に対する意識を高めていきたい。</p>	B
	13 職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	進路意識の向上を図り、就職開拓を継続的に行いつつ、就職希望者全員の内定を目指す。ハローワーク・進路支援業者・本校卒業生を活用し、社会人としての知識やマナー指導を徹底する。また、就職後の状況を確認し、今後の指導に役立てる。	<p>「今年度の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意味を考えさせるとともに、日頃の言動やマナーについての指導に力を入れた。 ・商工会主催の企業展示会をきっかけに関心を持った生徒に対し、求人開拓をおこなうなど、生徒の希望に沿った就職開拓を行った。 ・定着率向上に努め、企業の方に卒業生の動向などをうかがった。 ・ハローワークと連携し、生徒の希望に沿った求人を開拓した。 ・ハローワークや商工会、進路支援業者と連携し、就職試験に向けた指導や就職マナーの指導を行った。 <p>「今後の取組・改善策」</p> <p>今後の取り組みとして、就職後の状況を確認するなどして、定着率を高める指導を強化するようにする。また、資格取得に向けての指導を充実させるよう努める。</p> <p>生徒の希望に沿った求人を開拓し、ミスマッチの少ない進路決定につなげたい。</p>	A

領域	評価項目	実践目標	上段「今年度の取組・成果」 下段「今後の取組・改善策」	評価
人権教育	14 人権教育推進体制への取組	各学年、部、スクールカウンセラーと連携して、体系化された人権HR指導計画を作成する。 また、各学年の人権HRの具体的な事例を共有するとともに、職員研修を実施し共通理解を深める。	<p>「今年度の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとにテーマを設定し、ホームルームを実施する。 ・カウンセリングマインドや通級指導で行う自立活動のあり方など教師力向上のための職員研修を実施する。 ・生き方講演会や心のサポート講演会の講師選定・内容を精査する。 ・いじめ未然防止プログラム（兵庫県教育委員会）を活用し、人権教育を推進する。 ・北はりま特別支援学校との共同学習を実施した。 ・人権アンケートを実施した。 <p>「今後の取組・改善策」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが、講演会などの取り組みを実施できたことは幸いであった。生徒の反応も良好であったように見受けられる。 ・多様性が認められる社会の中で、生徒一人ひとりが更に多くの人権問題について考え、深く学べるような取組をしていきたい。 	A

領域	評価項目	実践目標	上段「今年度の取組・成果」 下段「今後の取組・改善策」	評価
特別活動等	15 読書活動推進への取組	読書活動の推進のための啓発を行う。 講演会、授業を利用した読書活動、図書館からの情報発信などを充実させ、読書を通して豊かな人間形成を図る。 昨年から引き続き、古い図書を捨てるなど、図書室内の整理に努める。	「今年度の取組」 ・効果的な図書館利用を検討し、読書の時間の本選びなど図書委員の活動を広げる。 ・読書の時間を使って、今話題になっている本などを読むように継続して本の整備をすすめる。 ・継続して本の整理作業をすすめる。 ・近隣の小学校へ出向き、小学生に対して絵本の読み聞かせを行う。 「今後の取組・改善策」 配架してほしい本のリクエスト募集を継続し、関心の強い本や新書を多く取り揃えていきたい。また、利用しやすい図書室を目指し、環境整備を行っていきたい。	B
	16 高齢者や障がいのある人などへの理解を深める指導の推進	福祉科・生徒指導部・各学年が連携を図り、福祉活動に学校全体として取り組み、学校と地域の結びつきを強める。	「今年度の取組」 ・介護職員初任者研修の全員取得に向けて取り組む。 ・現場実習を積極的に取り入れ、質の高い介護力を身に付ける。 ・ICTを活用した授業を展開し、より多面的な視点で生徒の理解力を育てる。 ・地域で活動する福祉関係の専門職と連携し、より地域に根付いた福祉を実践する。 「今後の取組・改善策」 ・福祉科だけでなく、クラス・学年・各教科と連携し、生徒により充実した福祉教育を目指す。 ・地域の福祉関係機関と積極的に連携・交流し、生徒の深い学びと将来に繋げる。 ・現場実習等を今後も継続し、実践的な学びから生徒の理解度を高める。	B
	17 国際交流事業の推進	交流事業を組織的に推進し、国際理解を深め、広い視野を持った生徒を育てる。 また、学校行事の中で、国際交流事業の成果を全校生徒に還元していく。	「今年度の取組」 ・今年度は講演会しか開催できなかったが、来年度はより多くの生徒がタイ王国の生徒との交流をもてるように工夫に努める。 「今後の取組・改善策」 今年実施できた講演会以外に、オンラインでの交流などの取り組みも広げていきたい。	B
	18 情報モラル指導の推進	各学年において人権尊重の意識を基盤とした情報モラル指導を行い、情報発信に伴う責任やネット上の危険について具体的な事例を用いて理解させる。 また、情報発信の実習を通して、モラルある情報発信について考える時間を設ける。	「今年度の取組」 身近なこととして情報モラルについて学べた。 「今後の取組・改善策」 授業などを通して、情報発信前の心掛けや情報モラルを学ばせたい。	B